英国発「Molton Brown」インドネシア初進出

花王

花王は、英国のフレグランスブランド「Molton Brown（モルトンブラウン）」を、インドネシアに初進出させ、2024年12月22日、インドネシア第2の都市スラバヤのラグジュアリーショッピングモール「Ciputra World Surabaya（チプトラ ワールド スラバヤ）」内に、旗艦店をオープンした。

以降、随時インドネシア国内でのECサイトのオープン、アジア有数のリゾート地であるバリ島をはじめ、高級ホテルでのアメニティ事業を展開していく。今後も、多様なタッチポイントの創出で店頭とECへの送客を図る「Molton Brown」ならではのOMO「Molton Brown VILLAGE」戦略を推進し、インドネシアでのブランドの存在感を高めていく。

花王化粧品事業は、「グローバル・シャープトップ戦略」を掲げ、「SENSAI（センサイ）」「Curél」とともに、「Molton Brown」をグローバル強化のファーストランナーとして戦略的な投資を行い注力している。23年のマレーシア旗艦店オープンを皮切りに、アジア強化をさらに加速。2024年5月に香港、7月にマカオに初進出、2025年以降シンガポール、タイに店舗を出店する。アジアエリアでの事業を強化し、さらなるグローバル化を目指す。

インドネシア1号店となる同店は、フレグランスプレイグラウンドを導入し、香水からバス、ハンド製品まで、顧客が気軽にカウンセリングを受けながら試すことができる造りになっており、「Molton Brown」の世界観が存分に堪能できる店舗となっている。

グローバル展開の加速に向けては、24年8月より、ブランドの新コンセプトとして「Artists of Note」と題し、3人の才能溢れる英国人アーティストとのコラボレーションをスタートした。「Molton Brown」の世界観や姿勢を表現する取り組みとして、ブランドが誇るアイコンフレグランスをそれぞれ彼らの独自の解釈で表現。アートを通じてブランドと顧客との新たな出会いを創出していく。今後も継続してフレグランスを軸としたプロモーションを世界中の展開エリアでグローバルに推進し、フレグランスブランドとしての価値を高めていく。

「Molton Brown」は、出店するエリアの周辺にあるラグジュアリーホテルやレストランでアメニティなどを展開。顧客とのタッチポイントを至るところに創出し、興味喚起につなげ、ECへの送客も図るというブランドならではの独自のOMO「MOLTON BROWN VILLAGE」戦略を推進している。

23年に旗艦店をオープンしたマレーシアは順調に売上を拡大しており、24年6月に2号店をオープンし、7月にはホテルアメニティに参入。25年にはECサイトとトラベルリテールを始動予定で、「MOLTON BROWN VILLAGE」の確立を着実に推進している。24年は7月にマカオ進出、台湾に2号店をオープンし、今回のインドネシア進出により、計画していたアジア各地での導入が完了した。今後はそれぞれの地域で「MOLTON BROWN VILLAGE」戦略を加速させ、グローバルでの存在感をさらに高めていく。

日本化学会第73回「化学技術賞」を受賞

花王は、「環境配慮型の付着抑制技術—疎水化CNFの乳化を活用した水系コーティング剤」に関し、公益社団法人日本化学会第73回（2024年度）「化学技術賞」を受賞した。この賞は、日本の化学工業の技術に関して特に顕著な業績が表彰されるもので、今回、花王は5回目の受賞となる。

日々の生活の中で、窓の汚れや屋根への積雪、落書きといったさまざまな付着物や汚れに悩まされることがある。また、製造や工事現場といった産業界でも、樹脂や泥が付着することによる作業効率低下が課題となっている。

花王は、昆虫をすべらせて捕食するウツボカズラを模倣した「滑液表面（すべる性質を持つ表面）」に着目。大きな労力やコストをかけずに付着物を防ぐ技術の確立を目指し、塗布するだけで対象面を滑液表面にするコーティング剤の開発を試みた。

具体的には、有機溶媒やフッ素化合物を用いない完全水系の処方で、かつ環境や作業者にもやさしい設計を検討した。

最先端バイオマス素材の「セルロースナノファイバー（CNF）」を独自技術で疎水化し、潤滑油を包み込むカプセル状の構造をとるようにコントロールすることで、高い滑液性と耐久性を両立した滑液膜を形成することに成功した。

開発したコーティング剤は、鳥糞や雪、海洋生物、泥、菌などさまざまな物の付着を抑制できると考えられる。中でも、ゴムや樹脂製品の成型時に型からスムーズに取り外すための離型剤として優れた性能を発揮することがわかり、技術を応用した製品「ルナフロー」を2024年に上市した。また、土木工事で使用する重機のバケットへの泥の付着を防ぐ用途での使用も進むなど、今後広い分野への展開が期待される。

私の H&B 日記

ソーシャルジェットラグ

24年から25年にかけての年末年始は、企業によっては最大9連休と長い休暇となったため、例年以上にゆっくりと満喫できた方も多いのではないだろうか。その反動で、筆者のように仕事始めの前までに、元の生活リズムに戻すことに苦戦した人も多くいたことと思いたい。

休日の魅力は、予定が許す限り、普段よりもゆっくりと寝られること。と言いたいところだが、平日と休日で起床・就寝時間が異なるような不安定な睡眠習慣は体内時計の乱れを引き起こし、心身にも不調をきたす。これは「ソーシャルジェットラグ（社会的時差ぼけ）」と呼ばれている。

ソーシャルジェットラグがもたらす影響について調べてみると、朝の欠食や運動不足、カロリー摂取の配分が一日の後半にシフトするなどの行動変化が生じるほか、摂取カロリーや栄養素の過多のみならず、その摂取時刻（夜間の摂食）が肥満のリスク要因となり得ることが複数の研究から示されている。また、睡眠負債はエネルギー摂取量の増加をもたらし、中長期的には肥満リスクを高めるものと考えられている。

その他、ソーシャルジェットラグにおける睡眠負債は抑うつ、不眠、耐糖能異常の原因にもなるという。睡眠制限下ではコルチゾールやカテコラミン分泌が増加することがわかっており、インスリン拮抗ホルモンの分泌や交感神経系の賦活化が惹起され糖代謝増悪の一因となっている可能性が示唆されている。

さらに、最近の研究では、ソーシャルジェットラグは健康リスクを生じさせるだけでなく、肌にも大きな影響を及ぼすことが明らかになってきている。先月のコーセーの発表によると、ソーシャルジェットラグが毛穴の目立ちや顔の赤みを引き起こすことが確認されたという。

筆者は新年を機に、今年1年の目標をいくつか立てた。その中には健康や美容に関連する目標もあったが、ソーシャルジェットラグの話を受けて反省し、目標リストに「睡眠リズムの改善」を追加したのだった。（上）